

越中八尾おわら歌碑 《いにしえの文化人との交流》

東新町通り(4/26)



▲東新町通り

軒端雀が

また来て覗く

きょうも糸繰りや

オワラ手につかぬ

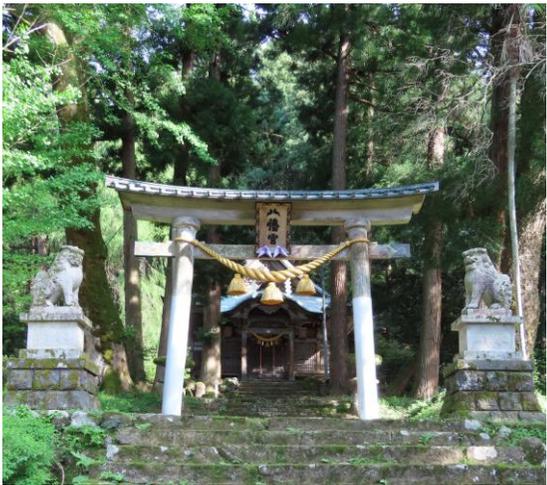
野口雨情



若宮八幡宮 (蚕養宮) : さんようぐう)

場所 : 東新町

富山市指定民俗文化財 平成十三年四月二十五日指定



上) 正面鳥居
下右) 手水舎
下左) 説明看板



八尾町は養蚕業、特に蚕種(蚕の卵)を生産し出荷することが発展し、戦前に至るまで町の基幹産業として隆盛していた歴史がある。江戸時代には日本全国の四分の一にあたる十七のくにへ出荷し、幕末から明治には販路を海外にも広げ、富山県の養蚕業の中心地として隆盛、この莫大な利潤を元に町民文化が育まれ、継承されている。養蚕業は八尾町民の生業として深く日常生活に関わり、風俗習慣として伝承され、生活文化を作ってきた。蚕養宮はその象徴である。
(説明看板内容より抜粋)

西新町三差路 (5/26)



※人物の説明は主にウィキペディアより抜粋

小川千甕 (おがわせんよう)
 仏画師・洋画家・漫画家・日本画家。
 明治十五年、京都の書肆「柳枝軒」の家に生まれる。本名多三郎。詩歌や書にも優れ、その仕事はまさに、縦横無尽といわれた。
 野積・室牧・落合 (高熊落合) は実際の地名にある。

野積室牧
 お主とわたし
 逢うて落合の
 オワラタ涼み
 小川千甕

【補足】八尾の地名が並ぶ唄は？

西新町（しんにやしき） 東新町（ひがししん） 諏訪町
上新町（かみしん） 鏡町（しんだち） 西町 東町
調子合わせて 今町（なかまち） 下新町（したまち）
天満町（こくぼ） 福島で オワラ 夜が明けた

越中八尾おわらを継承している十一の町を山手から順番になぞっていく様を歌詞にしたもの。
唄う際、「西新町」「東新町」「上新町」「鏡町」「今町」「下新町」「天満町」は、昔の読み方になる。



久婦須橋（くぶすばし） 眼鏡渡れば

十三甚九郎（じんくろう） 高熊落合野積の橋の

下を流れる水で育った八尾七谷 オワラ 唄の町



八尾の旧町を流れる井田川の下流から上流に向かって、合流する川を含む川にかかる橋を歌詞にしたもの。
「久婦須橋」は久婦須川、「眼鏡橋」は別荘川、「十三（現在の十三石橋）」「甚九郎（現在の禅寺橋）」は井田川、「高熊橋」は室牧川、「落合橋」「野積橋」は野積川に各々かかる橋。また、「八尾七谷」とは、八尾の地名に由来「飛騨の山々から富山平野に向けて伸びる八方の尾根と谷が合流する部分」を表し、この地理的特徴は、古くから人と物資の結節点として栄えてきた歴史を示している。

※説明は主にウィキペディアより抜粋

